



1 活動家はアフィニティ・グループの一員であり誓約書に署名しており、コア・グループに登録されていて非暴力と安全のためのワークショップに参加した者でなければならない。

2 私達の活動はオープンで公開されるという理念に基づいている。

私たちがその一端をにない、日々改善のために闘っている民主主義においては、誰もが他人の行動に疑問を投げかけたり、批判する権利をもっている。そのため質問に答えたり、行動に対する責任をとる人間が必要である。したがって私たちは、自分達のアイデンティティを隠すために仮面をかぶったり、警察から逃れようとしたり、行動を完全に秘密にしたりはしない。核兵器廃絶の計画や企画は、秘密にするかもしれない。しかし、一度行動を起こしたら、活動家達は自分達の行動の全責任を負うために現場に留まるだろう。

3 私達は誠実な態度で接し、遭遇する人達に敬意を払う。

道徳をふりかざしたり、警察や防衛に従事する人など接触をもつ人達を口頭で攻撃することで、不必要な分裂を生じさせたくない。適切であると判断すれば、彼らを丁寧に話し合いに引き込む。すべての人間には無限の価値があり、私たちと対等であるばかりでなく、核兵器廃絶プロセスにおける同盟者なのである。いつか核兵器廃絶が実現した時には、今私たちが挑戦している政策や措置を施行している当局や部署の担当者が、正式な核兵器廃絶プロセスを現実に遂行する担当者になるかもしれないのである。彼らが実際に核弾頭を撤去し、安全な倉庫に保管し、ミサイルを米国に返還し、潜水艦を廃船にして私たちが着手した核兵器廃絶プロセスを完遂する担当者になる可能性があるのだ。

4 いかなる個人に対しても身体的暴力や言葉による陵辱を行使しない。

暴力には身体的暴力と心理的暴力があり、「いかなる個人」という表現には私たち自身も含まれる。緊迫して圧力のかかった状況では、スローガンを叫ぶことさえ脅迫的で攻撃的と見なされることもある。状況を判断して、適切な行動をとらなければならない。私たちに対して暴力を振るう人はいないと仮定しているので、防衛上の装備はしていない。所有物を破壊することを暴力的であると考え人もいるが、私たちは平和的で安全な破壊や本質的に暴力的な所有物を取り壊すことが暴力的行為にあたるとは考えていない。実際、それは平和的で、必要で、責任ある非暴力行為であると考ええる。

5 武器は持たない。
核兵器廃絶のために私たちが携帯する道具は、いかなるものも人を脅かすような方法で使用してはならない。

たとえば警備員が私たちの方にやって来たら、道具をおいて空っぽの手を広げて見せればよい。

6 トライデント・プラウシェアズキャンプや活動にアルコールやドラッグ（医療目的以外で）を持ちこまない。キャンプに宿泊している時や活動に参加する予定の時に上記の物を敷地外で消費することも含む。

註：キャンプから離れたところでアルコールやドラッグの使用が認められているイベントに参加する人は、キャンプから出て、これらの物質の効果がすっかり消えるまでキャンプには戻らないことを約束して署名する。

これはトライデント・プラウシェアズのすべての集会に適用されるルールである。ゆえに、参加者全員が安心感を得ることができる。警察がやって来たとしても、彼らもまた、私たちが信頼できるのである。誓約書にこの項目があるのは、安全と非暴力を確実にするためだけであり、これらの物質一般について、あるいは人々のライフスタイルについて何らかのこ

メントをするものではない。

7 活動に関する色々な取り決めにすべて尊重する。

このハンドブックにある非暴力と安全のためのガイドラインは、運動全体に適用され、それらは譲ることのできない基本原則である。しかし、活動を進めていくうちに必要となる決議や取り決めは半年に一度開催される代表者会議などで協議される。



2.4 共同責任

非暴力抵抗運動においては、政府当局がリーダーとみなした者や、手当たり次第に何名かを連行して、キャンペーンの成功を阻止しようとするのがよくある。深刻な法的制裁に脅かされる者はほんの数名であり、それも実刑にはならないだろうが、最終的な結論が出るまで数年を要することもある。その間、サポーター達が意気消沈したり、怯えてしまって確信をもてなくなり、士気を失うという結果を招くことがある。

こうしたキャンペーンでは、情報が数名の人に握られている場合が多いが、そのような場合、誰かキーパーソンが「抜けた」（たとえば公判審理のために身柄を拘留されたりして）時に、キャンペーンにとって必要で重要な情報が欠落してしまう危険性がある。また、数名の人だけが情報を握っていると、他の人達は十分に関与あるいは参加しているとはいえず、不健全な権力構造が生まれてしまう。

こういった問題を避けるためには、全員がすべての関連情報を把握しているようにしなければならない。いかなる場合にも、プラウシェアズ活動は完全にオープンでなくてはならず、参加者全員、警察、裁判所、政府当局などと情報を共有するようにはなくてはならない。私たちに隠すべきものは何もなく、国際法を支持し、人間としての倫理をふまえて行動しようとしている。このハンドブックは、組織や意思

決定についての情報のみならず、技術上および法律上の情報をも共有するという、私たちの姿勢を示す一つの例でもある。誓約者全員が、トライデント・プラウシェアズに参加しているすべての人の名前と住所の最新リストを持っている。トライデント・プラウシェアズの活動家には、積極的サポーターと積極的核兵器廃絶活動家が含まれる。もしコア・グループが謀議の罪で拘留された場合（極めて稀ではあるが起こりうる）、他の活動家達は互いに連絡を取り合って新しいコア・グループを決定し、そのグループと共に活動を進めていく。私たちにリーダーはいない。自発的にやりたいと思う人達だけでいろいろな仕事をコーディネートする。このハンドブックに掲載されていない情報が欲しい人は、コア・グループの現メンバー(本章 2.1.1)に連絡して欲しい。ウェブサイトでは定期的に最新情報を掲載している。

私たちは、平和的な軍縮行動に従事している地球市民という仲間として互いに完全に共同の責任を負うという実験を試みている。個人の能力に応じて互いに責任をもち、平和なプラウシェアズ活動によってもたらされる個人的および法律的结果は、どんなものでも共有しようとしている。各アフィニティ・グループは、共同責任のコンセプトを研究し、どのように解釈するかを決めなければならない。およそ半年に一度開催される各種の代表者会議で互いにチェックすることができる。会議の議事録は誓約者全員に送付される。トライデント・プラウシェアズの総合的な決定は、これらの会議で行われ、各グループは代表を一名送らなければならない。そうでなければコア・グループだけが決定権を握ることになり、それは誰にとっても不公平である。

政府当局は、大部分の人がすぐに疲労して、粘り強くやり続けられないをよく知っている。共同抗議を続け、互いに助け合い、何度逮捕されても常に活動に復帰するような活動家には慣れていないだろう。抗議運動をする人達はたいてい一度逮捕されると止めてしまう。願わくは投獄されるまで活動を続けたいものである。私たちは真剣に核兵器を廃絶することを考えている。これは一日限りのデモンストレーションではなく、核兵器システムを廃絶するためのグループとしての共同の企てなのである。私